

令和5年10月13日（金）

令和5年度 大阪府立桜塚高等学校 第2回 学校運営協議会

場 所 会議室

時 間 18:00～19:30

准校長 今西 良介

委 員 古川 知子、島村 宏二、北之坊 晋次、永井 敏輝、崎阪 治、小川 美香

事務局 小西 基裕（教頭）、堺 啓介（教務主任）、室津 敬一郎（主査）

1 准校長・会長 挨拶

令和5年度は早くも半分が過ぎ、本校においては昨日と本日が文化祭です。昨日は舞台発表の日で、様々な歌やダンス、空手の演武など、多彩で楽しい舞台でした。本日は1階駐輪場付近で飲食店とゲーム縁日を各クラスが催していますので、のちほどご覧ください。また、9月初旬に食堂業者に代わってコンビニが入ることになり、府立高校初の取り組みとして新聞でも紹介された校内コンビニもあわせてご覧いただければと思います。

10月25日（水）から2泊3日で3年生の修学旅行を予定しています。修学旅行が終わりましたら、11月後半に後期中間考査があり、12月23日から冬休みに入ります。次の半年も生徒・教職員が安心・安全に毎日を過ごせるよう、努めてまいります。委員の皆さまにおかれましても、引き続き夜桜へご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

教 頭：それでは議事につきましては、進行を学校運営協議会にお渡しいたします。副会長よろしく  
お願いいたします。

2 報告について

1 生徒の活動状況について

（1）教務部より（教務主任） （資料1・別紙）

教務主任：資料1の生徒在籍について、年度当初の在籍は155名、10月1日付の在籍は152名  
となっている。詳細につきましては、1年次、転学2名、退学1名、2年次、転入  
1名、編入1名、3年次、退学1名、4年次、退学1名となっている。

教科書選定について、第1回学校運営協議会でお示ししたとおり、資料1の観点で選  
定した結果、別紙の令和6年度使用教科書の採択一覧表のとおりとなった。

委員B：1年次の生徒について、例年は夏休みまでに多くの生徒が辞めていると聞いている  
が、今年度は退学等が少ないようである。入学者を絞ったり、入学後に取り組んだり  
したことがあるのか。

教務主任：たしかに今年度は、1年次の転退学者が少なくなっており、学校に通えている生徒  
が多くいる。取り組みとしては、今年度に変えたことはないが、入学者の違いによる  
ことが大きいと思う。

准校長：大きく取り組みを変えたわけではない。令和5年度の新入生は約75%が不登校経験があり、学校へ通いたいが何らかの事情で通えなかった生徒であったが、高校入学後は学校生活に馴染めている生徒が多い。

(2) 生徒指導部より（教頭） （資料2）

教頭：生徒指導に関する前期の状況を報告する。まず、授業中や放課後、登下校中等で生徒指導の対象となったものは、39件であった。この中には授業中のスマートフォンの使用や自転車の二人乗りなどの指導がある。SNSによるトラブルが増加しているように感じている。担任からHRで指導するとともに、生徒指導部から集会の場などで全体に対しても指導を行い、トラブルが未然に防がれるよう対応している。

行事に関して報告する。文化祭については、新型コロナウイルスの影響で実施を見送っていた飲食模擬店を今年度から再開した。4年ぶりとなる。文化祭の1日目は舞台発表を行った。ダンス部や学年有志によるダンス発表が5件あり、そのほかには空手道部による板割り、有志によるライブ演奏が披露され、どの発表も日頃の練習の成果が感じられるものとなっていた。

資料2枚目には部活動の前期成績を掲載している。今年は陸上部の男子生徒2名が東京で行われた夏の全国大会に出場した。夏以降も大阪の大会で結果を残し、男子生徒、女子生徒ともに大阪の代表として近畿大会に出場する予定である。最後に、前期に行ったいじめ等アンケートの結果を報告する。アンケート実施後、校内でいじめ対策委員会を開き対応を検討した。生徒に対しては担任から聞き取りを行い、聞き取り結果をいじめ対策委員会で共有した。聞き取りの結果、「過去に不快な出来事があったが、現在はすでに解決しており、学校に望むことは特にない」という生徒や、間違えてはいと回答した生徒であったので、学校としては今回聞き取った生徒に対しては見守りを続けるという対応をとる。

委員C：日本語指導を必要としている生徒は何名か。

准校長：7名在籍しており、日本語も英語も話せない生徒もいる。授業等においては、翻訳アプリの活用や卒業生によるサポートを行っている。

委員A：夜間中学校においても、ネパール人の生徒が多く在籍している。ネパール語は単語の情報が少なく翻訳ソフトを使っても、間違った翻訳をされる場合が多々ある。「日本語→ネパール語、ネパール語→日本語」や「英語→ネパール語、ネパール語→英語」の逆変換をして、正しい翻訳か確かめている。高校はダイレクト受験で入学した生徒なので、大変だろうと思う。

夜間中学校では、本人たちの学びの意欲が高く何とかなっている。面談、懇談、健診のときには、通訳を呼んで対応している。費用もかかっており、サポートできるスタッフの数にも限りがあり、大変である。

委員C：いじめ等アンケートで、「パソコンやスマートフォン等で悪口を書かれたり嫌なことをされる」という項目が「2/96」（「ある」と回答した生徒数/全回答生徒数）と他の

直接悪口を言われるといったような項目に比べて低くなっている。インターネットの使い方の指導をしているのか。

准校長：小中学校でSNSに関する指導が継続されているため「～してはいけない」は身につけていると思われる。一方でSNSの使い方慣れ、「鍵アカウント」などクローズドな環境でSNSを利用している可能性はある。実際の数字には表れていないものがあるのではないかと危惧している。

委員C：96名しかアンケートに回答していないが、在籍している生徒は150名程度おり、通っている生徒はどの程度いるのか。

准校長：120～130名程度はいるが、アンケート時に欠席している生徒もいる。また端末を使ったアンケートだと端末をそのときに持っていない生徒もおり、回答できない生徒もいる。

委員B：アンケートは家で回答はできるのか。

准校長：家でも回答はできるが、それでも忘れてしまう生徒がいる。

委員A：陸上部で優秀な成績を収めているが、毎日練習をしているのか。

准校長：毎日ではない。学校外でジムに通うなど、学校外でトレーニングをしている生徒はいる。

委員A：22時でも体育館に明かりが点いているのが見える。生徒も先生も立派である。

### (3) 進路指導部より（教頭）（資料3）

教頭：卒業予定生徒数は26名。進路希望内訳は表の通り、就職16名、進学9名、アルバイト1名。就職希望16名のうち縁故・自己開拓での就職希望生徒数は5名。学校斡旋での就職希望11名のうち現時点で内定済みの生徒数は6名。進学希望者9名の内訳は大学3名、専門学校6名。現時点で大学1名、専門学校4名が出願を終えている。残りの進学希望者は11月の公募推薦、1月以降の一般入試で受験予定。大学入学共通テスト受験予定生徒は1名。学校斡旋での就職希望生徒のうち、就職先未決定の生徒5名については現在2名が試験を終えて結果待ち、1名が応募書類提出済みで試験日の連絡待ち、2名が受験企業を決めて現在応募書類の作成中となっている。

委員C：企業は人不足と言われているが、実際にはどうか。

教頭：内定は決まりやすい。売り手市場となっており、希望してくれる生徒を企業が逃したくないと考えているように思う。

委員A：卒業予定の外国籍の生徒は何名か。

教務主任：2名おり、2名共に就職を希望している。

委員A：家族滞在ビザで来日しているが、就職するとビザが変わる。ぜひ就職してもらいたいと思う。

委員C：卒業生の状況を追っているか。

准校長：就職してもすぐに辞めてしまう場合も多く、課題だと考えている。企業と生徒のミスマッチがあるのではと考えている。

委員C：大学では就職した先がいわゆるブラック企業であったということも聞くが、高校でもブラック企業に就職することもあるか。

准校長：高校は就職実績を売りにしないため、無理矢理に就職先を決めることがない。大学の場合は、就職実績を上げるためにミスマッチな就職はあるかもしれない。

教 頭：高校就職の場合、職安（ハローワーク/公共職業安定所）を通っているため、企業も管理されている。違反した場合は、次年度以降、掲載されなくなる。

委員A：昔の定時制は学力が高くない生徒が多かったが、今は学校に通えていなかった学力の高い生徒が入学することで、進学率は高まっているか。

准校長：過去のデータを分析したが、特に規則性はなく年度によって傾向が大きく異なっており、進学率が高まっているとは言えない。入学制度も変わってきており、指導方針により総合型選抜（旧AO入試）などを活用するなど、進学率は高めることはできる。

委員A：今年度の卒業予定者は、進学希望者が多いか。

教務主任：進学希望者が多いと聞いている。

## 2 学校経営について

### (1) 学校経営計画進捗状況（准校長）（資料4）

第1章の「めざす学校像」について、年齢やルーツ、これまで経験してきたことも千差万別の生徒たちが、小さなトラブルはありながらも、お互いに適度な距離感で相手を認め合い、学校生活を送っている。

第2章の中期的目標の1節「確かな学力の育成と生きる力の獲得」にある個別最適な学びについては、本年度はほとんど日本語の読み書きができない生徒が複数名入学しており、国語科教員が親身に日本語指導をしてくれている。生徒も意欲を持って勉強しているが、生徒によって習熟度に差が出てきているため、今後は習熟度別にさらに個別対応が必要。また、今後も日本語指導の必要な生徒の入学が予想されるため、先生個人の頑張りではなく、学校を挙げてサポートできる仕組みを整備する。

2節「未来の創造に向けた希望と意欲を育む支援体制の確立」では、今年は教職員向けにパワハラ、セクハラ、SNS活用の研修を実施予定で、パワハラ研修は実施済み。ハラスメントについては人によって、年代や環境によって受け取り方にかなり幅があるため、どのような行為がハラスメントにあたるのかについて、常に知識・意識のアップデートが必要。特に生徒に対するセクハラについては、生徒への不必要な身体接触はあってはならないことで、「スキンシップ」で片付けられるものではなく、昔は当たり前だったという考えは通用しないため、教員ひとりひとりが指導観や指導方法を時代に即してアップデートできるよう、継続して研修を行う。

3節「校務の効率化と働き方改革の推進」では、継続して会議の効率化を図っている。少人数体制でも機能する組織の見直しは前年度に実施済みだが、現在、教職員の頑張りでなんとか維持できているのが現状。年々生徒ひとりひとりのケアにも時間が必要になる中で、人員の確保が急務。

4節「開かれた学校運営と地域連携」については、「学校に行きたいけど行けない」中学生をはじめ、中学生とその保護者に向けて、直接情報発信ができるようにホームページをリニューアル

アルする。ホームページを見た中学生・保護者が具体的に夜桜の生活をイメージできるようなページ構成を予定している。

(2) 定時制高校の現状について (准校長) (資料5)

現在、大阪府教育庁では、令和5年度から令和14年度までを計画期間とする「第2次大阪府教育振興基本計画」に則り、定時制高校の在り方についても検討が始まろうとしている。

まず、不登校生徒に関して、令和5年度入学生について調べたところ、小中学校で不登校歴がある生徒が40名中31名、77%の生徒に不登校歴があることが分かった。特に、中2の夏から不登校になったという生徒が6、7人いる。また、かつてのいわゆる勤労学生や学び直しのために入学する20代以上の生徒は大幅に減少し、8割以上が中学校卒業後すぐに夜桜に入学している。

夜桜では、一般社団法人キャリアブリッジさんにご協力いただき、居場所事業として、「うーぱー」という名称で毎週火曜日と金曜日に畳張りの和室を開放して生徒が自由に過ごせる空間を運営していただいている。何気ない会話から生徒の悩みごとの相談や、アルバイトの紹介、職場見学の同伴など、日常生活のサポートもしていただいている。

さらに、豊中市社会福祉協議会さんにも、食糧支援や資格取得のための講座等のご支援をいただいている。

夜桜の生徒実態としては、不登校歴のある生徒が多いが、総じて夜桜の小規模な集団に居心地の良さを感じており、中学校時代には経験できなかった修学旅行や文化祭などの学校行事への興味関心が高い。一方で同年代間でのコミュニケーションの経験が少なく、コミュニケーションの取り方が分からずに積極的に行動できない生徒も多いように見える。夜桜ではコミュニケーションの小さな失敗を重ねながら、少しずつ社会性を身に付けていっている。

定時制高校は現在生徒数の減少が続いており、全校生徒が20名という定時制高校もある。定時制高校は必要なものだが、ニーズがマッチしていない部分もある。生徒たちに話を聞いて感じるのは、不登校歴があるとは言っても、何らかの理由で「学校に行きたいけど行けなかった」子どもたちが夜桜に入学してくれている。今後もそのような「行きたいけど行けない」生徒たちの社会的自立を支援できる学校でありたいと考えている。一方で様々な事情で自宅から外出できない、外出したくない、進学の意味のない中学生に向けた高校の在り方については、今後教育庁とも連携し、新たな学校の形を模索していく必要があると感じている。

お気づきの点や、定時制高校に期待することなどがあれば、ぜひともご助言をいただきたい。  
委員C：保護者にも支援が必要なケースが多いとあるが、豊中市は総合的な支援を行っている  
ので、何かしらの協力ができる。

准校長：豊中市は市役所内での情報共有を積極的にされている印象がある。豊中市の方からお声がけをいただき、すでに協力していただいている案件がある。豊中市社会福祉協議会からもいつも食材支援等をいただき、感謝している。

委員C：「中2の夏から不登校」が多いと資料にあるが、よく言われる中1ギャップというものとデータが異なっており、意外であるという印象を受けた。

准校長：データは前年度のものをまとめている。

委員A：このデータが自己申告であるのならば、中1から休みがちで、中2から全く学校へ通わなくなった場合、自己申告上は、中2から不登校となっているのではないか。

委員B：保健室登校はあるか。

准校長：中学校ではあるかもしれないが、高校ではない。

委員C：新型コロナウイルス流行以降、不登校が増えている。かなり先とはなるが、豊中市でも不登校特例校（学びの多様化学校）を設置する予定である。連携を検討していただいてもよいのではないかと思う。

### (3) 授業アンケート（7月）結果（教頭） （資料6）

設問内容は別紙にある通りとなっている。令和元年度から令和4年度までは年2回行われるアンケート結果の平均値。令和5年度のみ7月に行ったアンケート結果そのままの値である。結果を見てるとグラフからわかるように設問1及び設問2について向上が見られる。これはどちらも生徒本人の意識を問うもので、新年度が始まって前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。その他の結果については下降気味に見受けられる。ただ、見やすくするため縦軸の目盛り幅が0.1刻みなので振れているように見えるが、大きな変化はない。

委員C：生徒の取組1・取組2の項目が上がっており、集団の差とは違う動きをしているが、どう分析しているか

教 頭：7月時点でのアンケートなので、意欲に満ちている時期である。また、グラフの目盛りの差が大きいため、0.1の差でも大きな差に見える。そして、他のデータは2回の平均値であるという違いもある。意欲が高いことは良い傾向であると考えている。